

# 令和2年度 西東京市立田無第四中学校 関係者評価表（2）

学校の教育目標						
・すすんで学び、しっかりした学力をつけよう。・丈夫な体をつくり、豊かな情操を身につけよう。・友達を大切に、仲間の輪をひろげよう。□目標を決め、深く考えて、最後までやりぬこう。 重点目標 自 治 1 考える 2 思いやる 3 やりぬく□						
1 目指す田無四中の姿 (1) 確かな人間関係を基盤とする「温かな学校」 (2) 生徒と教職員一人一人が生き生きとしている「活力のある学校」 (3) 生徒、教職員が一体となり、本気で取り組む「感動あふれる学校」						
心ひらきあおう 2 目指す四中生の姿 (1) 自ら考え、学び視野を広げ、丈夫な体と豊かな人間性を身につけた生徒 (2) 友達を大切に、礼儀正しく接し、相手を思いやる生徒 (3) 何ごとにも本気でねばり強く取り組み、最後までやりぬく生徒						
3 教職員の姿 (1) 一人一人を大切に生徒に寄り添い、温かく生徒を認める教職員 (2) 教育の専門家として資質向上に心がけ、研修に励む教職員 (3) 教育公務員としての自覚を持ち、信頼される学校をつくる教職員						
	具体的方策	学校自己評価		学校の取り組みおよび改善策	学校関係者評価	学校関係者評価記入欄
		取組指標	成果指標			
確かな学力の向上	授業のユニバーサルデザイン化を重視し、「わかった」と言える授業を実施する。	4	4	四中ユニバーサルデザインにより教育環境を整えた上でわかりやすい授業を目指した。授業のねらいを明確にして、習得したことを活用し身につける授業に取り組んでいく。	A	ユニバーサルデザインにより、ねらいを提示し、学習に見通しをもたせることや黒板周りの掲示物を少なくし、生徒が集中して授業に取り組める環境が整っている。
	教材教具の工夫やICT機器の活用を進め、興味をもって学べる工夫を行う。	4	4	各階に単焦点モニターを配置。教材・教具の工夫に研究授業での成果を生かした。コンピュータ・視聴覚機器の授業への活用をさらにすすめる。	A	I C T機器を活用した授業実践が増えてきている。タブレット端末の導入に向け、より一層活用をしてほしい。
	言語活動を生かした授業に取り組み、「思考力・判断力・表現力」の育成に努める。	4	4	記録する、要約する、説明する、論述するなどの活動を意図的に設定した。さらに、生徒同士の学び合いや考える時間を引き続き増やしていく。	A	授業中に、記録する・要約する・説明する・論述する場面をより多く設定する。
豊かな心の育成	学校行事や委員会活動、部活動などの諸活動を通して、学級・学年への所属感や自己有用感を育てる。	4	4	それぞれの活動において、所属感や自己有用感を高めるよう指導した。上級生を手本として取り組んでいる。さらに、活動を活発にさせていく。	A	十分に取り組んでいる。
	学校図書館の活用を進め、朝読書や読書マラソンに取り組み、読書習慣の定着を図りながら、学びを深めさせる。	4	4	安定して朝読書を実施している。昨年度に続き、学年文庫、読書活動を推進している。特色ある本校の体験学習の機会を今後も生かしていく。	A	ゲーム以外の時間は、読書に取り組ませてほしい。
	道徳で人権や命を大切に授業に取り組み、自他を尊重する態度を育てる。	4	4	道徳教育、人権尊重教育などを継続して行い道徳的判断力を育成している。特別な教科道徳の完全実施に向けて、研修を進めた。引き続き、市研究指定校として取組を進める。	A	十分に取り組んでいる。
個に応じた指導	基本的な生活習慣の育成を目指し、①あいさつを交わす②時間を守る③身だしなみを整えるなどのルールやマナーの大切さを理解させ、集団としての成長を図る。	3	4	あいさつ運動、一分前着席など行い、規範意識や生活習慣を日々の生活の中で繰り返し意識づけ指導し、一定の定着が見られる。今後も自分たちで行動できるように指導していく。あじみの励行を進める。	A	「あいさつ・時間を守る・身だしなみを整える」は今後も継続して取り組んでほしい。
	ふれあい週間や教育相談活動を充実させ、個々の生徒との関係を築き、いじめの防止等生徒の学びを支援する。	3	4	職業調べ、身近な人へのインタビュー、職場体験、上級学校調べ等行い、自らの生き方、意識づけを早めに持てるよう指導している。面談や進路説明会さらにを丁寧に行っていく。	A	コロナ禍で実体験と組み合わせた活動へと発展させてほしい。
地域との連携	ボランティア活動や奉仕活動、清掃活動等を進め、生徒の自主性を伸ばすとともに、地域社会の一員としての自覚を育てる。	4	4	生徒会、ボランティア部等を中心にボランティアへの参加呼びかけをしている。ボランティア活動の報告を朝礼で行っている。医療従事者へのメッセージボードを作成した。	A	育成会の活動ができなかったため、中学生へのボランティア活動の機会がなかった。来年度は、コロナ禍でできる形を考えて中学生に投げかけていきたい。
	学校公開や学校HP・学校だより、学年だよりなどを通して、本校の教育内容や生徒の活動について積極的に発信し、理解と協力を得る。	4	4	各種便り、HPの活用により学校の様子をタイムリーに情報発信している。携帯メールの活用により情報発信も積極的に行っている。今後も続けていく。	A	十分に取り組んでいる。

A：自己評価は適切である。 B：自己評価は適切ではない。 C：評価のための資料が不足している。 D：評価は不可能である。